

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 「人材育成その他の教育研究上の目的」について歯学部キャンパスガイドP1「人材の養成・教育研究上の目的」及び本学ホームページ上で公表されており、「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に基づいており適切である。				
(2) 大学の理念・目的に基づき設定している「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」より、歯学部の人材養成・教育研究上の目的を定めているため、関連性がある。				
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
歯学部キャンパスガイド(P ii 本学の教育理念)				
愛知学院大学ホームページ(各学部の「人材の養成・教育研究上の目的」)				
愛知学院大学人材の養成教育研究上の目的に関する規程				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 歯学部の人材育成その他の教育上の目的を「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」に明示している。				
(2) 「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」の内容をキャンパスガイド、愛知学院大学ホームページに掲載し、教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表している。				

基準1. 理念・目的	組織名	歯学部
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。		
根拠資料名		
歯学部キャンパスガイド(P1 人材の養成・教育研究上の目的)		
愛知学院大学ホームページ(各学部の「人材の養成・教育研究上の目的」)		
愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程		

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 毎年2回程度開催される歯学部自己点検・評価委員会は愛知学院大学歯学部自己点検・評価委員会内規に基づいて歯学部の教育理念・目標および歯学部の3つの方針について、全学的なそれとの整合性を検討し、教育の充実、学習成果の向上を目指している。同委員会の検討結果は歯学部教授会においてさらに審議され、それに基づいて改善向上の方策が検討される。歯学部自己点検・評価委員会には外部委員(1名)を含んでいる。 自己点検自己評価委員会委員からの依頼に基づき、愛知学院大学歯学部教員資格審査内規、愛知学院大学歯学部教員資格審査委員会規程および愛知学院歯学部教員の採用および承認に関する審査基準の指針を制定し平成31年4月1日から施行した。また専任教員の評価のために愛知学院大学歯学部教員資格審査内規の改定と愛知学院大学歯学部における教員活動の業績評価指針の制定を行い、令和2年4月1日より施行した。現在これらを基に適切な教員評価を行っている。 進級及び最低修行年限での歯科医師国家試験合格率ならびに歯科医師国家試験合格率の向上等を目的として、平成31年度より新たに歯学教育情報管理分析(IR)室を設置した。IR室において、教育に関する情報を収集し、教育の改善に資する調査・分析の客観的データを教授会に提供した。 毎年、未来口腔医療研究センター 歯学教育 ICT 開発研究部門が主催して、愛知学院大学歯学部・大学院歯学研究科「歯科医学教育者のためのセミナーとワークショップ」を開催し、FD活動を継続している。 また、「ルーブリック評価」について「レポート評価用ルーブリック」・「ケースプレゼンテーション用ルーブリック」・「アウトカム「レジン補充」評価用ルーブリック」といった委員にて作成した3種類のひな形を基に協議をし、今後の歯学部における「ルーブリック評価」のあり方について3つのポリシーや中期計画等に絡めて、歯学部教務委員会及びカリキュラム委員会にて継続して審議が必要である旨を確認した。</p>				
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
愛知学院大学歯学部自己点検・評価委員会内規				
令和3年度第1回愛知学院大学歯学部自己点検・評価委員会議事録				
愛知学院大学歯学部教員資格審査内規				
愛知学院大学歯学部教員資格審査委員会規程				
愛知学院歯学部教員の採用および承認に関する審査基準の指針				
愛知学院大学歯学部における教員活動の業績評価指針				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既に行っている場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準2」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 大学全体のDPに則した方針でありつつ、患者さんを診る歯科医師を養成するという歯学部の特長性に対応するようにアレンジした学位授与方針を、歯学部自己点検・評価委員会および歯学部教授会にて、協議した上で設定し、歯学部キャンパスガイド及び大学のホームページ上に公表している。</p>				
<p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」、「印刷物」、「ホームページURL」、「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
歯学部キャンパスガイド				
歯学部教授会議事録(令和元年7月24日)				
第1・2回 歯学部自己点検・自己評価委員会議事録				
愛知学院大学歯学部ホームページ_学部紹介_建学の精神 (http://www.dent.aichi-gakuin.ac.jp/spirit/index.html)				
愛知学院大学ホームページ_大学案内_教育理念・各種方針_ディプロマポリシー_学部 (https://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/diploma01.pdf)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 大学全体のCPに則した方針でありつつ、歯学部独自の教育課程にアレンジしている。例えば、歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準の改定に合わせて、教育課程の体系や教育内容の確認および改定を歯学部カリキュラム委員会・歯学部教務委員会および歯学部教授会において行ない設定し、歯学部キャンパスガイドおよび大学のホームページ上に公表している。</p> <p>(2) DPに掲げた目標を達成するためにCPが策定されており、適切な関連性が保たれている。また、DPやCP(学位授与方針、教育課程の編成・実施方針)の改定の必要性が生じた場合には、歯学部自己点検・評価委員会、歯学部教務委員会および歯学部教授会において審議し、改定を行う。</p>				
<p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」、「印刷物」、「ホームページURL」、「組織内資料」等を記入してください。</p>				

根拠資料名
歯学部キャンパスガイド
歯学部カリキュラム委員会議事録(令和3年7月12日)
愛知学院大学歯学部ホームページ_学部紹介_建学の精神 (http://www.dent.aichi-gakuin.ac.jp/spirit/index.html)
愛知学院大学ホームページ_大学案内_教育理念・各種方針_カリキュラムポリシー_学部 (http://www.agu.ac.jp/pdf/guide/ideal/curriculum01.pdf)

点検・評価項目	評価の視点	自己評価
③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
	(2) 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	B
	(3) 個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
	(4) 各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 <学士課程> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 <修士課程、博士課程> コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	B
	(5) 学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A

【現状】 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1)
 開設する授業科目については「歯学教育モデル・コア・カリキュラム」、「歯科医学教授要綱」、「歯科医師国家試験出題基準」等に基づき、「教育課程編成・実施の方針」に従って、歯学部教務委員会で検討し、作成された原案を歯学部教授会で審議して決定している。歯学部が担当する専門教育課程に関しては、歯学部教務委員会・歯学部カリキュラム委員会で検討し、体系的に編成された原案を歯学部教授会で審議して決定している。このように、教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性の確認は、歯学部カリキュラム委員会・歯学部教務委員会および歯学部教授会にて行っており、その整合性が保たれている。

(2)
 将来、歯科医療に携わるという特殊性があることもあり、歯学部専門教育科目は全て必修としており、教養科目の一部を選択履修させている。また、上記のように、歯学教育コアカリキュラムや歯科医師国家試験出題基準に則した形での専門教育課程の編成を行っており、特に専門教育科目については、それらを順序立てて系統的に履修する必要があるため、学年制を採用し、順次性のある授業科目の体系的配置に努めてきた。しかしながら、共用試験(CBT)後の学生アンケートなどから、一部の教育科目に関しては、より低学年に配置することを検討した方が良い科目もあり、2021年度は一部1年生専門科目の順次性を見直した。さらに2022年度は補綴系科目を中心に順次制への配慮を加えたカリキュラムの部分的改変を決定している。今後は、モデルコアカリキュラムの改訂に合わせて、専門科目の順次性と授業科目の位置づけ(必修・選択)について、適正化に努める。

(3)
 教育課程の編成・実施方針に沿った形で、講義・実習内容を組み立て、シラバスの作成を行なっていることを、歯学部教務委員会・カリキュラム委員会および歯学部教授会において、確認している。また、単位制度の趣旨を踏まえ、1時間の授業には授業時間に等しい時間の予習と復習が求められることをシラバスにも明記しており、学生に学修時間の確保を促している。

<p>(4) 学士課程においては、初年次教育、高大接続についてできるだけカバーできるように、入学前に通信講座を開設している。また、理科学目については入学後のプレイズメントテストの結果により基礎講義の受講を促しているほか、試験前等の補習授業を行っている。教養教育はほとんどが第1学年に行い、その上で第2学年以降の専門教育へ繋がるようにしている。第1学年を対象に開設する教養教育科目とその教育課程については、「愛知学院大学歯学部の履修等に関する取決め」に従い、教育を担当する教養部と協議し、決定している。2015年度導入の現行カリキュラムでは、早期体験学習を可能にする目的で、第1学年の「歯学入門セミナーⅠ～Ⅴ」では大学で学ぶために必要となる基本的知識、自主的な問題発見と問題解決能力を養う内容を取り入れ、「教育課程編成・実施方針」の具現化に努めている。 また2021年度からは、学生の授業への取り組み状況等に基づいた見直しを行い、1年生に実施する専門科目を補綴系から歯科基礎系に変更した。今後は、モデルコアカリキュラムの改訂に合わせて、教養科目と専門科目の配置について、適正化に努める。</p>
<p>(5) 歯学部の「教育目標・理念」に記載されているように、歯学部教育は歯科臨床に携わる歯科医師を育成することを第一義としており、教育課程の全体が「学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育」の課程となっている。このように、優秀な歯科医師を養成するための教育課程編成を心がけており、これらは、歯学部カリキュラム委員会・歯学部教務委員会および歯学部教授会にて協議・確認されて決定している。キャリア教育の具体例として、「歯科入門セミナーⅡ～Ⅴ」では歯科医師としてのキャリアデザインに資する講義、実習、病院見学を行っている。臨床実習前にはOSCE並びにCBTにより、基本技能と知識を確認できてから望む体型になっており、基本的な臨床実習後にはPost-CC OSCE(現時点ではトライアル)並びに総合試験により、一定以上のレベルの歯科医師として就労できると認定されないと卒業できないシステムになっている。これにより、歯科医師として一般診療を行うための基本的知識と技能に関しては十分に備わるため、学生の社会的及び職業的自立は十分修得できるものとする。</p>
<p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>
<p style="text-align: center;">根拠資料名</p>
<p>歯学部キャンパスガイド</p>
<p>第1学年～第5学年シラバス</p>
<p>愛知学院大学歯学部ホームページ_学部紹介_建学の精神 (http://www.dent.aichi-gakuin.ac.jp/spirit/index.html)</p>
<p>愛知学院大学入試情報サイト_学部・学科_歯学部歯学科 (http://navi.agu.ac.jp/faculty/dentistry/)</p>
<p>歯学部カリキュラム委員会議事録(令和3年7月12日)</p>
<p> </p>

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	B
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 <修士課程、博士課程> ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるように具体的に説明してください。				
(1) 歯学部カリキュラム委員会・歯学部教務委員会および歯学部教授会にて協議・確認され、歯学部専門教育課程(学年制)の適切な内容を決定している。授業時間外の学習の活性化の為に、シラバスへの予習・復習課題の提示を行い、一部ではWebコンテンツを準備して学習支援を行なっている。				
(2) シラバスは学年ごとに作成されるが歯学部カリキュラム委員会・歯学部教務委員会および歯学部教授会にてシラバスの内容が適切なものかどうかについて協議・確認されている。シラバスの内容として、授業の目的、教材と参照ページ、参照URL、到達目標、歯学教育モデル・コア・カリキュラムとの関係、授業内容及び方法、成績評価方法、予習・復習等についての具体的内容と所要時間、等を明示している。授業内容とシラバスとの整合性の確保のために授業評価アンケートで整合性に関する設問を設けており、授業内容はシラバスに沿ったものであるという評価を得ている。				
(3) COVID-19感染症拡大の影響はあるものの、teamsを用いた遠隔システムを活用した対面・遠隔のハイブリッド授業を実施した。また、令和2年11月には歯学部FD講演会を開催し、teamsを活用し工夫を凝らした授業を行っていた教員に、実例を紹介してもらうことで、令和3年度以降に教員が行うハイブリッド授業の指針とした。授業の学習の活性化や参加型学習の為に、パワーポイントを用いた授業を主体とし、teams上で質問・議題を学生に投げかけるような工夫を凝らした授業を心がけるとともに、teams上で空欄穴埋め式の授業資料の配布や授業に関するレポートの提出、到達度確認テスト(formsなどを活用)等を実施している。さらに、一部の科目ではteamsとは別の教育コンテンツとして授業時にも利用できるWebコンテンツを準備して学習支援を行なっている。				
(4) 学士課程において、歯学部は学生数が100名以上であり、COVID-19感染症拡大時の対応としてハイブリッド授業形態となった際に半数は対面、半数はオンライン授業で実施したが、対面で受講できる機会(回数)に不公平が出ないようにするため、一般的な15回授業において7回の対面授業と、7回のオンライン授業、そして全員が受講する1回のオンライン授業という形式で実施した。授業の大部分が一括授業であるが、ハイブリッド形式の対面受講時の座席位置による不利益が出ないように視聴覚機材の充実にも努めている。また、CSS (Communication Support System) という学習支援体制を導入・運用されている。これは、1～4年生が対象で、15～20名程度の学生に対して1名の教員を配置し、教員が学生の生活と学習の問題点の把握と生活面でのアドバイスや学習支援を行うものである。5年生に対しては臨床実習インストラクターが同様の役割を担っている。6年生に対しては新たに国家試験受験支援室を立ち上げ、学生が選んだ教員がチューターとして活躍していただき、学生相談・学習支援・夜のミニセミナー等を行っている。また、学生主体のグループ学習を支援する目的で夕方以降にセミナー室や一部の講義室を開放し、さらに6年生に対しては、自習室を確保している。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				

根拠資料名	
第1学年～第5学年シラバス	
コミュニケーションサポートシステム(CSS)について(資料)	
歯学部カリキュラム委員会議事録(令和元年7月1日)	

点検・評価項目		評価の視点	自己評価
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3) 卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4) <修士課程・博士課程> 学位論文審査基準を明示していますか。	
		(5) 学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するためにどのような措置を講じていますか。学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6) 適切に学位授与を行っていますか。	A

〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。

(1) 単位認定に関しては「愛知学院大学学則第7条」と「愛知学院大学歯学部の履修等に関する取決め」に明記している。また、他大学等での既修得単位の認定については、「愛知学院大学学則第8条の2」に明記しており、適切に単位認定を行っている。

(2) 成績評価に関しては「愛知学院大学歯学部の履修等に関する取決め」及び「愛知学院大学歯学部の試験に関する内規」、「歯学部の再試験に関する申合せ」、「試験に関する不正行為に関する内規」、「愛知学院大学の単位認定及び成績評価に関するガイドライン」に従って、客観性・厳格性を担保して行われている。また、シラバスには各科目ごとに評価方法や評価割合を明示している。さらに、シラバスに関しては講座間でシラバスチェックを行っている。一部の科目では、ルーブリックを導入し評価を行っている。

(3) 卒業要件に関しては、「愛知学院大学学則第8条」及び「歯学部キャンパスガイド」(p58,59)に学生にもわかりやすいように明記されている。

(4)

(5) 学士の学位審査(卒業認定)に関しては、「愛知学院大学学則第8条」及び「愛知学院大学学位記授与に関する規程」に従い、歯学部教授会で審議の上、代表教授会で決定しており、客観性、厳格性が確保されている。

(6) 客観性及び厳格性が確保された状態で学士の学位審査(卒業認定)を行った後に、対象者一同への学位授与を行う学位授与式を行っている。

〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名
歯学部キャンパスガイド
第1学年～第5学年シラバス
愛知学院大学学位授与に関する規程

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	A
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 学内試験及び実習の成績ならびに全国の歯学部学生が受験する共用試験(CBT、OSCE)及び歯科医師国家試験の成績を用いて、多角的に学習成果を測定あるいは評価している。これらは、歯学部教授会にて協議・確認されている。				
(2) 学習成果を把握・評価する為の測定方法としては、筆記試験、課題レポート(一部でルーブリック方式を採用)、口頭試問、模型を用いた技能試験、ならびに共用試験を行うことと、学生への授業アンケート調査、さらに学年主任主体で卒業時のアンケートを行うなどして、PDCAサイクルに繋げるように努めている。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
歯学部教授会議事録(令和4年1月26日)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	A
		(2)	点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 歯学部4年生は秋学期に共用試験(CBT、OSCE)を受験する。共用試験は歯学教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した全国共通の標準評価試験(令和6年より、この試験の公的化が決定しており、合格が国家試験受験要件となる)である為、この結果と6年生が卒業直前に受験する歯科医師国家試験の成績によって教育成果の検証を行い、教育過程や教育内容・方法の改善に結びつけている。また、学生による授業アンケート評価の結果についても、教員が検討し、講義・実習の改善に繋げている。しかし、このアンケートに関しては歯学部の特性上、講座単位の授業評価等も考慮する必要があると思われる。</p> <p>(2) 2015年より歯学部においては新カリキュラムが導入・運用されており、これはこれまでの点検・評価結果に基づき、内容の見直しを行ったものである。新カリキュラムの導入により、早期体験学習の実質化、学習意欲の高揚、学習レベルの向上、学習効率の改善を目指している。しかしながら、新カリキュラム2015が導入されて間もなく、歯学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂されたことや、近いうちに歯学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂されること、そして令和6年からCBT/OSCEという共用試験が公的化されることがあり、それらに対応すべく歯学部新カリキュラム2024年版を策定する必要がある。現在、歯学部のカリキュラム委員会、教務委員会で検討が進んでいる。</p>				
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
歯学部キャンパスガイド				
令和3年度春学期 歯学部「学生による授業アンケート」集計表				
歯学部教務委員会議事録(令和3年6月17日)				
歯学部カリキュラム委員会議事録(令和3年6月14日)				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
<p>根拠資料名</p>	

5. 「基準4」全体の自己評価

<p>基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。</p>	<p>自己評価</p> <p>A</p>
---	----------------------

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 各種入学試験の基準を設定するとともに、学位授与方針(DP)、教育課程の編成・実施方針(CP)を踏まえたアドミッションポリシーを公表し、アドミッションポリシーに沿った学生を入学させている。</p> <p>(2) 入学前の学習歴や学力水準および能力の求める学生像は、アドミッションポリシーに記載している。また、入学希望者に求める水準の判定方法は、入学時学力テストおよびプレイスメントテストなどを行い、入学前の学習歴、学力水準及び能力を判定している。入学希望者に求める水準等の判定は、各種入学試験後に試験成績、小論文及び面接などの評価を総合的な成績を元に最低基準を設定し入学の可否について判定している。</p>				
<p>[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
大学HP-大学案内-教育理念-各種方針-アドミッションポリシー				
歯学部教授会議事録(令和元年7月24日)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 前年度入学試験終了後より、歯学部入試検討小委員と入試検討小委員会にて、次年度についてアドミッション・ポリシーに基づき募集方法や入学選抜制度について検討し、その検討結果を歯学部入試委員が出席する入試委員会に報告する。そして、前年度の入学試験による募集人員、入学者数、入学者の成績などを指標として、再度、入試委員会にて、次年度の募集方法や入学選抜制度について設定している。</p> <p>(2) 毎月一度、各学部の入試委員と入試センターによる入試委員会を開催し、各学部の入学者の定員や成績などの情報が共有できるようにしている。つまり、各学部の情報を学内において公表している。歯学部においては、歯学部長、基礎系教務主任および臨床系教務主任が入試委員として、その入試委員会に参加し、その入試委員会での検討事項を歯学部教授会にて審議し、歯学部教授会の意見を入試委員会にて、歯学部入試委員が報告する体制を整えている。</p> <p>(3) 各入学試験終了後に、歯学部入試委員が、入学試験、面接および高校の成績、志望理由などの資料を基にして、入学者の選抜を行った後に、そのつど入試委員会を開催し、全学部の入試委員へ、選抜基準を説明し、入試委員の意見を集約して、適切な判断をするための確認作業を行っている。</p> <p>(4) 障害のある学生が、他の学生と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、歯学部は別室受験や試験時間の延長は難しいですが、信仰を配慮した試験時等の昼食の個別対応は行う等、適切な変更・調整を行っています。しかしながら、全ての要求を受け入れることができる体制にはなっていません。</p>				
〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
入試ガイド				
愛知学院大学入学試験委員会規程				
愛知学院大学歯学部・歯学研究科障がい学生支援委員会内規				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 入学定員については、前年度の受験者数、受験者の出身、入学者数、未入学者数などを調査し、教授会において検討し、その決定事項を歯学部入試委員が入試センターに報告し、入試センターと協調しながら、入学定員を決定している。在籍学生数については、毎月、管理している。現在、編入学による編入学生は受け入れていません。したがって、入学時の収容定員を適切に行うことを最も重要視しています。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
令和3年度 第1回歯学部教授会議事録				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 4年次に行う共用試験、5年次に行う総合示説試験、6年次に行う総合示説試験、卒業試験、及び国家試験の成績を資料として、歯学部教授会にて、毎年成績を確認し、入学者の適切性について評価している。また、各学年末に、各学年の進級判定会議を開催し、その結果を基にして入学者の適切性の判断を行い、改善・向上に向けた取り組みを行っている。				
(2) 4年次に行うCBT、5年次と6年次に行う総合示説試験、6年次に行う総合歯学試験および卒業試験の合格判定基準について、歯学部教務委員会にて検討し、その検討した結果を歯学部教授会に報告し、歯学部教授会にて合格基準の見直しをして、毎年、決定する取り組みを行っている。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
令和3年度卒業判定教授会(令和3年12月15日)、令和3年度1～5年生進級判定教授会議事録(令和4年3月2日)				
愛知学院大学歯学部の試験に関する内規				

2. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

<p>「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。</p>	
点検・評価項目番号	改善策
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

<p>基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。</p>	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 歯学部における教員組織の編制方針を策定し(令和2年3月11日歯学部教授会)、教員組織の編制方針を適切に定めている。</p> <p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p> <p style="text-align: center;">根拠資料名</p> <p>歯学部教員組織の編制方針</p>				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	A
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 2021(令和3年度)年5月1日現在における歯学部教員の構成は、専任教員数144人、主任教授18人、教授、准教授又は講師の合計数106人で、大学設置基準に定める「専任教員数106人以上、教授、准教授又は講師の合計数36人以上、教授18人以上」の条件を満たしており、講座毎の専任教員の定員も教授選考予定の1講座及び内科学講座を除いて満たされている。また、専門課程における2021(令和3年度)年5月1日現在の専任教員一人当たりの学生数は4.4(2～6年生:638名÷144(専任教員数)人)であり、教員組織は適切に整備されていると言える。なお、上記の専任教員に加えて、非常勤講師926名も教育に携わっている。</p>				

(2)
歯学部は講座制を採用しており、基礎系8講座と臨床系15講座の計23講座からなる教員組織によって教育を実施している。歯学部専門教育科目について、2科目(隣接臨床医学、歯科法医学)を除き、全科目を歯学部のいずれかの講座が責任講座になって担当しており、基礎系および臨床系講座の設置状況は妥当と思われる。
基礎系講座に所属する専任教員の定数は4名である。臨床系講座に所属する専任教員の定数については、内科学講座5名、外科学講座3名、麻酔学講座、口腔衛生学講座、歯科放射線学講座は5名、他の10講座は9名である。各講座は主任教授、准教授、講師、助教から構成されており、講座により構成は異なる。一部の臨床系講座には特殊診療科教授が配置されている。
授業科目担当教員の選任にあたっては、教育歴・研究歴に基づいて、授業科目担当者に相応しい常勤または非常勤講師を採用するか、既に採用されている教員の中から適任者を選定しており、いずれの場合においても歯学部教授会の議を経て決定される。

(3)
専任教員の男女比は109:35である。講座制を採用しているため、教員の授業担当負担については、講座主任が担当教員の意見を参考にして調整している。教員の年齢構成についても、講座単位で講座主任が検討しつつ、教員の採用申請を行っている。2021(令和3年度)年5月1日現在における専任教員の構成は、20-29歳が0.7%、30-39歳が19.4%、40-49歳が34.0%、50-59歳が21.6%、60-69歳が24.3%であり、バランスの取れた構成になっている。
ただし、専任教員の男女比については検討の余地がある。

(4)
教養部が設置されており、令和2年度の授業より、楠元キャンパスにて教養部に所属する教員によって教養授業が実施される。

[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

キャンパスガイド

歯学部講座別現在員表(令和3年5月1日現在)

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 講座主任教授と特殊診療科教授の選任は、「愛知学院大学教員資格選考基準」、「愛知学院大学歯学部講座主任教授・特殊診療科教授選任規程」及び「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」に基づいて進められ、講座主任教授は「歯学部講座主任教授選考並びに審査に関する内規」及び「歯学部講座主任教授選考委員会に関する申合せ」に従い、特殊診療科教授は「歯学部特殊診療科教授選任に関する内規」に従って選考している。 教員を任期を定めて任用する場合には「学校法人愛知学院任期制教員規程」、「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」及び「愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針」に従って任用している。任期を定めて任用された教員の再任用または専任教員としての採用にあたっては、「学校法人愛知学院任期制教員規程」に基づいて、当該教員の任期中の業績審査は「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」、「愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針」、その結果に基づいて再任用(助手のみ)または講師以上の専任教員として任用している。 専任教員の評価は「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」及び「愛知学院大学歯学部における教員の活動業績評価指針」に従って行い、結果は当該教員へフィードバックされる。				

(2)

講座主任教授の選考は、上記の規程、内規および申合せに従って進められ、公募を原則としている。公募条件は内規に従って組織された選考委員会によって検討され、歯学部教授会に提案されて審議された後、理事会の承認を受けて決定される。

特殊診療科教授の選任は上記の規程と内規に従って進められ、内規に規定された特殊診療科教授選考委員会が候補者の審査に当たる。准教授、講師、助教及び助手の任用にあたっては、当該講座の主任教授が候補者を歯学部教授会に提案し、歯学部教授会は審査を歯学部教員資格審査委員会に委嘱する。審査委員会は「愛知学院大学教員資格選考基準」、「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」(資料6-4)及び「愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針」に従って審査の上、審査結果を歯学部教授会に報告し、歯学部教授会で審議・承認する。

歯学部教授会で選考された主任教授、特殊診療科教授、准教授、講師の候補者は、全学の代表教授会で審議・承認された後、理事会に諮られ承認されることによって任用される(助教と助手については代表教授会の審議を必要としない)。

教員の准教授、講師および助教への昇任にあたっては、当該教員の所属する講座の主任教授が歯学部教授会に提案し、歯学部教授会は審査を歯学部教員資格審査委員会に委嘱する。審査委員会は「愛知学院大学教員資格選考基準」、「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」及び「愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針」に従って審査の上、審査結果を歯学部教授会に報告し、歯学部教授会で審議・承認する。准教授、講師への昇任は代表教授会で審議・承認される(助手の助教への昇任については、代表教授会の審議を必要としない)。

〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

愛知学院大学教員資格選考基準

愛知学院大学歯学部講座主任教授・特殊診療科教授選任規程

愛知学院大学歯学部教員資格審査内規

歯学部講座主任教授選考並びに審査に関する内規

歯学部講座主任教授選考委員会に関する申合せ

歯学部特殊診療科教授選任に関する内規

学校法人愛知学院任期制教員規程

愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針

学内理事決裁の件(平成31年2月21日付 No178号)

学内理事決裁の件(No178号)

愛知学院大学歯学部における教員の活動業績評価指針

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	B
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 歯学部には歯学部FD委員会を設置している。歯学部FD委員会は歯学研究科未来口腔医療研究センターと合同で、教員の資質の向上を図るための講演会を2019(平成31)年度に1回開催したが、COVID-19感染症の流行により以後の企画は延期又は担当者間の動画回覧等となった。歯学部は講座制を採用しているため、教育経験の短い教員を講座内の教育経験の長い教員が援助し、教育経験を共有することによっても教育力の向上を図っている。 また、全学的に行われている「学生による授業アンケート」を実施し、その集計結果と各教員の担当する授業に対するアンケート結果を比較することによって、授業の改善点を探ると共に、自己評価することが可能となっている。</p> <p>(2) 任期を定めて任用された教員については、上記の如く、「学校法人愛知学院任期制教員規程」、「愛知学院大学歯学部教員資格審査内規」及び「愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針」に従って当該教員の任期中の業績審査を行っている。任期が定められていない専任教員についても、「歯学部専任教員の評価(審査)に関する内規」及び「愛知学院大学歯学部における教員の活動業績評価指針」に従って一定期間ごとに評価を行い、必要な場合には改善の勧告をしている。</p>				
<p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
歯学部FD委員会内規				
令和3年度 愛知学院大学歯学部 歯科医学教育者のためのセミナーとワークショップ				
令和3年度 春学期 学生による授業アンケート調査用紙				
歯学部専任教員の評価(審査)に関する内規				
愛知学院大学歯学部における教員の活動業績評価指針				
愛知学院大学歯学部教員資格審査内規				
愛知学院大学歯学部教員の採用及び昇任に関する審査基準の指針				
学校法人愛知学院任期制教員規程				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	B
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 歯学部・大学院歯学研究科機構改革推進委員会および学長、法人理事を含めた愛知学院大学歯学部改革実行委員会で教員組織の適切性について検討している。</p> <p>(2) 教養教育担当者との連携を強めることとなり、従来、離れたキャンパスで行われていた教養教育が専門教育と同一のキャンパスで行われることとなった。</p>				
<p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
歯学部・大学院歯学研究科機構改革推進委員会規程				
愛知学院大学歯学部改革実行委員会規程				

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	長所・特色
	なし
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。	
点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2021年度(評価対象期間:2021年4月～2022年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 歯学部学術交流(国内・国外)委員会を構築し、学外組織との適切な連携を行うことができるよう体制を整えている。「社会連携・社会貢献」担当委員が歯学部における自己点検・評価の項目を策定している。地域交流として「ときめきサイエンス」、「歯科資料展示室」の外部機関への案内・啓蒙を、国際交流事業として「姉妹校提携」「モンゴル、ラオス(歯学部主導)の大学やNPO等の各種組織と協力し学術交流を推進」等の活動に取り組んでいる。</p> <p>(2) (1)教育における貢献・連携(医療関連大学等)、(2)研究領域における貢献・連携(歯科隣接領域大学との貢献・連携、各種研究機関との貢献・連携)、(共同研究、受託奨励など企業と連携)(3)臨床における貢献・連携(寄附講座等)、(4)各省庁関連機関への貢献・連携(厚労省への人材派遣等)、(5)歯科領域の団体との貢献・連携(歯科衛生士会との連携等)、(6)国際協力(姉妹校連携等)、(7)地域への貢献・連携(歯科医師の海外派遣等)等を行っている。</p>				
<p>〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
愛知学院大学歯学部の社会貢献・社会連携の事例(資料)				
歯学部教授会議事録(令和元年7月24日)				
歯学部教授会議事録(令和2年4月13日、5月27日、10月21日、10月28日、令和3年3月10日、3月24日)				
歯学部教授会議事録(令和3年5月19日、6月23日、7月14日、9月8日)				

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	B
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 歯学部における社会貢献・社会連携の実践報告に対する、専門的な点検・評価体制は構築されていない。しかしながら、教授会における各種報告並びに議論により点検評価を行っている。教員個人単位で社会連携・社会貢献に関する取り組みについては、「歯学部教員活動業績の評価基準」の5領域中における「社会貢献活動」の項目にて評価を行っている。歯学部教員は1年毎に「教員自己評価表」及び「目標シート」を作成し、所属長により「歯学部教員活動業績の評価基準」に基づいた評価を受けその結果を歯学部長へ提出しており、歯学部として年度毎の振り返りを実施し、点検・評価している。</p>				

(2)
 今後は、歯学部学術交流委員会(国内・国外)が点検・評価の体制を構築し、歯学部内において承認後、点検・評価の業務を同委員会が行う。

〔根拠資料名〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

愛知学院大学歯学部における教員の活動業績評価指針(令和2年4月1日制定)

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
	なし

〔根拠資料〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
	なし

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策

〔根拠資料〕上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A